様式1

令和３年度　学校評価表

学校教育目標	社会で通用する基礎・基本を磨き， よりよい自分・学校・社会を目指そうとする生徒の育成

令和3年9月7日

a　ミッション 【地域・社会における 本校の使命・存在意義】	地域に誇れる学校づくり ～　地域からの期待に応え，期待を超える学校づくりを　～	a　ビジョン 【実現しようとする 本校の将来像】	○オール因島南（学校・家庭・地域）で，連携・協働し，生徒を育む学校 ○学校・地域（ふるさと）を誇り，自分の生き方を見つめ直すことに繋げる学校 ○社会の変化に対応し，向上心を持ち，思いを実行に移せる学校

尾道市立因島南中学校

評価計画						自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b　中期経営目標	c　短期経営目標	d　目標達成のための方策	e　評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
育成する資質・能力「主体的に学ぶ力」「表現力・コミュニケーション能力」「はがれ落ちない基礎基本」	確かな学力の育成	学校・地域（ふるさと）を誇り，自分の生き方を見つめ直すことができる生徒の育成。	【ふるさと学の推進】 ○自分の身のまわりの生活や社会を意識させる指導内容を工夫する。 ○各教科，道徳，特別活動と総合的な学習の時間「ふるさと学」を関連させ，学んだことを発信する意欲を高める。	「自分達の学んだことを人生や社会に生かそうと思う」生徒の割合	90%	83%		92%	B	感染症対策でいろいろ制約を受ける中，新たなカリキュラムを編成しながら取り組んだ。道徳では学校生活と結びつく形で順番を組み替えて実施した。1年生では地域を知るための学習をした。2年生は職場体験学習が無くなったので，それに代わる学習を計画する。3年生は鹿児島修学旅行で学んだ文化や産業についてまとめ，ふるさとへの提言に繋げる。	○			・制限の多い中での教育活動にもかかわらず達成度が高かったのは良い。今後の充実と深化を期待したい。 ・この学習内容は，学校の外とのつながりの中で広がり深まって行くものだと思います。コロナ等で計画実施に困難さはありますが，タイミングをはかりながら実施できる範囲で進めてほしいと思います。 ・職場体験等，地域の方とのふれあいが難しいが，関りをもてるよう取り組んでもらいたい。	1年生では，小学校で学んだことを深める学習を進めていく。2年生では延期となっている『職業人に学ぶ』を企画実施していく。3年生では今までの学びの集大成とし過去の学びを振り返るとともにふるさとへの提言（1人1研究）を進めていく。
		本質的な問いを工夫し，授業をファシリテートできる教職員の育成。	【授業改善の推進】 ○授業のめあて，振り返りとゴールイメージを持ち，授業をファシリテートできる教職員の育成。 ○学習課題（ミッション）として本質的な問いを工夫し，生徒の意欲や探究心を高め，表現力を育成する。 ○教育用タブレットとGsuiteを活用した授業づくりの推進	「できた」「わかった」と授業で感じている生徒の割合（全教科平均）	85%	72%		85%	B	昨年度から生徒が意欲的に授業の見通しを持って取り組めるような学習課題（ミッション）を設定し，研究を進めた。6月には授業交流を実施した。タブレットを各授業で月2回以上使うように取り組んだ。	○			・質の高い項目の評価指標なので，教職員間の共通認識をしっかりと…。学びの不易の部分を基盤にした新しい教育を取り組んでください。 ・ｃの内容が本経営目標の達成条項をみる指標として必ずしも妥当かどうか疑問があります。また方策ｄが達成する手段として必ずしも適切と言えない面があります。 ・こんな時期だからこそ生徒の学びに向かう意欲や振り返りの中での学んでよかったという自己肯定感を育んでやりたいですね。	講師とも連携し，生徒が意欲的に取り組めるようにめあて・ミッション・振り返りがリンクする授業改善を進める。小学校でも取り組んでいるタブレット学習について，中学校でもより効果が上がるように連携を進める。
		「社会で通用する基礎・基本」を身につけ，活かすことができる生徒の育成。	【基礎学力の定着】 ○「学びのサイクル」の充実・発展 ・授業と家庭学習と南中タイムと試験を連動させ，個別指導に丁寧に取り組む。 ○家庭学習習慣の定着 ・委員会による課題提出の取り組み	調査問題の県・市との正答率比	100%	97%		97%	B	標準学力調査（国語・数学）の結果，1年生では市比96%で，2年生では97%であった。1年生の国語の活用問題では市比-8.8%であり，2年の数学の活用問題では市比-4.8%あり，活用力に課題がある。3年生の全国学力学習状況調査の結果は8月下旬に発表される。	○			・学びの機会や時間が少ない傾向が窺えるので刺激を与える工夫をしながらの授業改善を目指してください。 ・全体の傾向を見る誤答分析は授業改善に欠かせませんが，支援の必要な生徒に絞って，個人個人による誤答の傾向分析などにも取り組んでみてください。 ・1，2年生の正答率を上げる取組をしっかり進めてもらいたい。	誤答分析を進めたうえで，どうしてその間違いが起こったかを把握し，その間違いが起こらない授業改善を進める。1，2年生とも活用問題の正答率に課題があった。基礎基本をしっかりと定着させたうえで，授業において活用問題に取り組む時間を多く確保するようにし，検証問題で正答率を上げるように取り組む。
	豊かな心の育成	常に向上心を持ち，実行できる生徒の育成。	【向上心・実行力の育成】 ○「特別な教科　道徳」の充実 『プラスワン作成・助言→取り組み・実践→自己評価・他者評価→反省・改善→新たなプラスワン作成』のサイクルの定着と充実に向けた指導を進める。 ○教材ごとに教材吟味シートで吟味を重ね，生徒実態を踏まえた道徳の授業づくりを進める。	生徒アンケート「みんなで何かに取り組み，やって良かったと感じることがある」と捉えている生徒の割合	90%	79%		88%	B	中体連南部地区大会が中止になり，体育大会が延期となり行事が減っている。生徒の意見発表や委員会活動などの普段の活動を大事にしながら取り組みを進めた。	○			・校内行事をいろいろ工夫されての達成遅だと評価します。 ・この時期，この項目の達成度が予想以上に高いと思いました。先生方の取組に感謝します。	2学期に実施予定になった体育大会や学習発表会について，感染症対策を取る新たな形で工夫をし，生徒にやりがいや充実感を得られるように工夫をしていく。
				プラスワンが達成できるように努力している生徒の割合	90%	81%		90%	B	プラスワン(目標）については手立てや結果について評価を記入することやステップアップ（日記）にも週ごとの評価をすることで目的意識を持ってできている。	○			・個々の変容が一番評価できる項目です。しっかり見取って欲しいです。	2学期には体育大会や学習発表会や新チームでの大会が予定されている。見通しと目的意識を持って課題設定ができるように計画的に提示し，取り組ませる。
		生活習慣の改善ときめ細やかな見取りと対応による不登校生徒の減少	【不登校の未然防止】 ○生徒理解・安心できる集団づくりの推進 ・アセス活用，面談，学級経営の充実 ○　不登校生徒への支援の充実 ・教育相談・家庭連携・関係機関等との連携の充実 ・ＳＣとの教育相談委員会の充実， ・ＳＳＷの活用による生活改善の推進	アセス「友人サポート」56，「教師サポート」60の向上	100%	友人56.5 教師59.4		99%	B	アセスを使って集計した結果，友人サポートが56.5，教師サポートについては59.4となった。その他の因子についてもすべて50を超えており，生徒理解や安心できる集団つくりができていると考えられる。		○		・達成遅が低い気もします。 ・目標値ｆの設定の仕方がわかりずらい。 ・様々な自粛の中で家庭でもいろいろなストレスがあると思います。アセスとともに日常的な子供の変化の把握や家庭との連携が必要な時期になっていると思います。 ・問題行動が増えているのが気になります。	アセスの結果について，クラスの様子や個に関わる研修し，今後の取り組みの方向性を共有する。
				新たな長期欠席生徒をだなさい。（昨年度１８人）昨年度長期欠席生徒のうち好ましい変化が見られるようになった生徒数の増加	60%	33%		55%	D	昨年度，長期欠席生徒18名のうち，好ましい変化が見られるのは7人，そのうち1年生は5人である。	○			・コロナ禍の影響を受けると思いますが，要員を取り除くことに尽力ください，期待される学校に向けての正念場の項目です。 ・コロナ禍の中，全体の精神的ケアも大変だと思います。	担任やＳＣによる面談，ＳＳＷによる保護者連携や家庭訪問を計画的に実施した。今後ともこの取り組みを継続して進める。
	魅力ある学校づくりと働き方改革の推進	働き方改革の意識を持ち，個々の教職員が業務改善に取り組むことで生徒が，生き生きと生活を送ることができる学校づくり	【働き方改革の推進】 ○働き方改革の意識向上 「自分も起点」という位置に立ち，協働して取り組む教職員組織の育成。 ○超過勤務時間の削減	働き方改革アンケート肯定的評価	80%	86.7%		108%	A	アンケート10項目の平均値は，昨年度から徐々に上昇し，目標を達成できている。 1．生徒と向き合う時間の確保が60% 2．日々の業務で充実感を得られる66.7%	○			・アンケート項目の1･2･3･4の課題解決に向けての方策も必要ですね。 ・コロナ禍の中、生徒･教職員とも戸惑いの中での教育活動だったと思います。その状況下の中で教職員が一体となって取組みを行い、成果が出ていると思います。今後も課題点は改善して、継続して取組みを進めてください。	行事や活動が制限されるコロナ禍であっても，日々の授業改善に取り組み，授業の中に協働的な学びの場面や，生徒とともに教職員も充実感が得られる授業づくりを進める。
				超過勤務時間の前年度比１０%削減	10%	8%		80%	B	昨年度は4月，５月が臨時休業であっただめ，一昨年と比較したところ，８%削減できており，また今年度の平均超過時間も43.2時間で，４５時間を下回っている。	○			・評価できます!! ・時間的な取組は可視化できて大切だと思いますが，健康やストレス低減に向けての取組を進めて，生徒の前で元気な先生であってほしいと思います。	成果に繋がった早期退校日の取組や，目標退校時刻の設定，朝の入校時刻の設定などを継続するとともに，担当業務のスケジューリングや進捗に対する意識を高める。

【自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００
Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０　　Ｄ：（できていない）＜６０

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。
ハ：わからない。